

二月鹿ノ台教室誌上句会 優秀句

お題「叱る」(連記) 八木哲子選

叱られて今日が始まるぬれ落葉

えいじ

褒められたような優しいお目玉だ

千楽

気が付けば父に似て来た叱り方

英二

ステイホームもう慣れました叱ること

幸男

気がつけば私を叱る人ひとり

広子

えらいのは口だけなのかと叱られる

登美

叱られて尾を振る犬に共感し

ミノル

叱ること親も上司もできぬ世に

充

淋しさを知っている目に叱れない

よう子

ニュートラルカーボン地球のお叱り

正清

叱る時涙が光る母でした

義雄

叱られかた知らぬ子供が親となる

乃り子

叱られて涙流して出た本気

アキラ

叱られて悩み蹴散らしじつと待つ

宏樹

叱責を笑いに変える舞台裏

ちさと

秀 叱りながら私の胸にも釘ささる

春代

軸 おつちゃんは何成敗のアンパイア

哲子

お題「軽い」 杉本ミノル選

重荷負い軽い風情で歩いてる

広子

ありがたい小さく軽い引き出物

英二

妻卒業重い荷物をそつと置く

哲子

お買い物ぼく持てるよとどや顔で

春代

人命の重い軽いは国による

千楽

お流れに軽い笑いを混ぜてみる

正清

ひとりなら風に吹かれて生きてみる

広子

軽口をたたき生涯棒にふる

乃り子

軽口をたたける友という温み

アキラ

医者へ行ける人には軽く言えるだけ

宏樹

楽な方いつも選んで生きてる

えいじ

秀 リセットの出来ぬ命を軽く消す

よう子

軸 春が来る足どり軽くジョッキング

ミノル

お題「福」 五十嵐千楽選

大福餅名前と味で二度美味し

充

隙間からやつと手にした残り福

哲子

お先にと得意げに咲く福寿草

充

幸せは青い鳥より赤い糸

義雄

福ひとつそつと包んで胸のうち

広子

医療者に休息という福袋

乃り子

ステイホーム独り楽しむ福笑い

幸男

残り福ワクチン積んで日本丸

乃り子

福島がフクシマのまま凍りつく

英二

しあわせに楽しみながら朽ちてゆく

えいじ

お金があれば幸福ですかグリーンさん

アキラ

秀 福の神は笑顔が好きと娘に諭す

広子

軸 待ちましようどんな嵐もいつか去る

千楽

自由吟(共選) 水間 充選

息子には苦勞させぬと苦勞人

英二

明け方の沈みきれない薄い月

哲子

三寒に耐えて四温に背を伸ばす

アキラ

一人が独りにならぬかテレワーク

千楽

独逸語で医者が手術の結果告げ

乃り子

靴音がたたずんでいる凍て北斗

正清

暇ばかり行くとこもなく庭を掃く

えいじ

美容師に医師に話せぬこと話し

宏樹

あああああ言葉失いジャンボクジ

ちさと

絵文字減りメールの友と冷めてゆく

義雄

延命はしないと傘のしづく切る

よう子

秀 くずかごに薬のんだか聞いてみる

よう子

軸 しめ飾りニセの稲穂に雀シュン

充

自由吟(共選) 原 広子選

息子には苦勞させぬと苦勞人

英二

割り勘は後くされないお付き合ひ

乃り子

たわむれといいつつ本気出している

登美

一人が独りにならぬかテレワーク

千楽

はしやぐ声登校中にぼたん雪

春代

くずかごに薬のんだか聞いてみる

よう子

道たがえ仏に半歩近づきぬ

正清

舞い戻れ空しく願う千の風

義雄

長生きの秘訣知っても真似できず

宏樹

延命はしないと傘のしづく切る

よう子

明け方の沈みきれない薄い月

哲子

秀 三寒に耐えて四温に背を伸ばす

アキラ

軸 英国の器量見直す美術展

広子

三月誌上句会 投句々三月十日 各二句

「別れる」(連記) 橘正清選

「走る」坪田登美選 「いきなり」播本英二選

自由吟(共選) 勝部乃り子 奥村義雄選

*メール又は封書 アキラ迄

*書式・用紙は自由、お題・柳号記入を